

# 「遺跡報告総覧」を通じた国分寺市文化財刊行物の公開

中野純（国分寺市教育委員会ふるさと文化財課）

Disseminating Publications about Cultural Properties of Kokubunji City via SORAN

Nakano Jun (Kokubunji city, Board of Education)

・デジタル化／Digitization ・公開／Dissemination

## はじめに

国分寺市には、今年史跡指定 100 周年を迎えた武蔵国分寺跡<sup>1)</sup>、縄文時代の大規模集落として知られる恋ヶ窪遺跡<sup>2)</sup>、「包含層」の概念が規定されるきっかけとなった国分寺村石器時代（本町）遺跡<sup>3)</sup>、岩宿遺跡と同時期に認知されつつも調査が後回しとなってしまうため、「最初の旧石器時代遺跡」となれなかった熊ノ郷遺跡<sup>4)</sup>といった遺跡があり、市内に 46 の埋蔵文化財包蔵地が存在する。

これまでに武蔵国分寺跡では 800 次近い発掘調査が行われており、市域の遺跡をあわせると 1000 次を超える調査が行われている。そのうち約 600 次分の報告書を作成している。

平成 30 年（2018）2 月の遺跡報告総覧の説明会に職員が出席したことから、遺跡報告総覧に報告書のデータを掲載することになった。しかしその 2 ヶ月後の人事異動でその職員の異動したことから、考古学の専門教育を受けていないが、司書資格は持っている筆者が担当することとなった。現時点で東京都内の自治体としては最多の件数の報告書を遺跡報告総覧を通じて公開している。

本稿では、国分寺市の埋蔵文化財報告書の遺跡報告総覧への掲載について、どのような経過を経て行ったのかということ、およびその過程で発生した問題、残った課題について報告する。なお、この作業は改元をまたぐ時期でもあったため、西暦で表記する。

## 1. 当初の計画

遺跡報告総覧への掲載作業については大きく 3 つの作業が必要になると判断し、下記のような手順で行う計画をたてた。他自治体のように PDF データを作成・保存していなかったため、スキニングについては一からの作業となるため、人手が必要になることが想定された。そのため翌年度以降に人件費を確保した上で実施する方針とした。

	2018 年度	2019 年度	2020 年度
書誌・抄録の入力			
PDF 作成・公開			
権利関係の整理			

書誌・抄録データの掲載・公開を先行することで、PDF データの公開作業が遅滞したとしても、対外的には図書館などでの閲覧に対応できること、内部的には報告書に関わる権利関係の整理や必要な人件費の積算が出来ると考えた。

2018 年度当初に刊行物からのスキニングの基準を定めた。報告書のスキニング作業は職場にある複合機を用い、図面図版のある基本的な頁は「600dpi・カラー」、文字だけの頁については「200dpi・グレースケール」で読み込むことにした。この検討については職場内の考古学を専門とする職員の意見を集めて決定したが、これ以降は、考古学専門外の職員による作業となっている。

## 2. 計画の崩壊

### (1) PDFデータの作成

2018年6月から職員の入院にともない、突然短期間の臨時職員が配置されることになり、筆者の抱えている仕事のうち、細かい指示をしないでもできる仕事はないかという話が降ってきた。そのため、スキニング作業をお願いすることになった。つまり立案して2ヶ月で計画が崩壊したとも言える。

職場にあった複合機には、事前に設定をしておけば、先述の細かい設定を毎回行わないでも読み込める機能があったので、その機能を利用して作業を行った。

この作業を始めるにあたり、きれいな状態の発掘調査報告書が残されていなかったため、書き込みがあるものや、日焼けや変形があるものなどを用いることになってしまった。書き込みについては、消しゴムで消せるものについては消してから行うこととした。ボールペンでの書き込みなど、その場での修正が出来ない物については、のちにデジタルでの修正を行うことになる。一方、保存状態が悪かったため良かった点としては、糊が劣化していたため解体については比較的容易に行えたというのは皮肉なことであった。

### (2) PDF作成での問題

PDF作成での問題として、上記の問題だけでなく、報告書の形態や複合機の機器の限界としての問題も生じている。A3版を超える大版の付図や折り込み図など大きい物については、ひとまず分割して読み込んだため、これを結合する必要が生じた。

読み込んだ際に、図-1のようにスクリーントーンが欠落するという現象が発生した。これについては原因が全くわからず、数年後に職場に配置されていた複合機が、新しい複合機に変更されると、図-2のように問題なく表示出来るようになったものもある<sup>5)</sup>。

新しい複合機で行っても全く表示できないものもあるため、図面にデジタル的な修正を行う必要が生

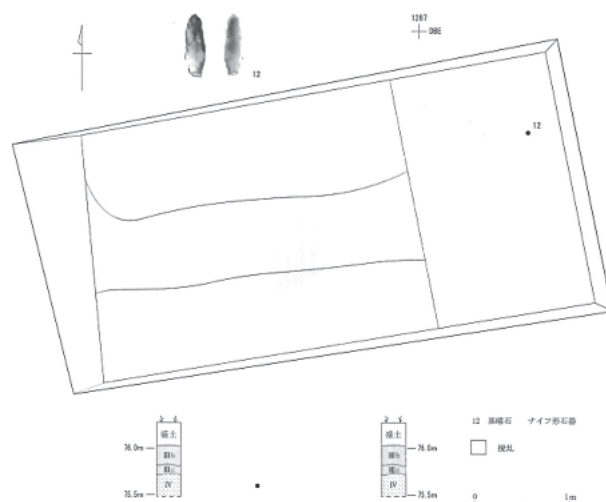


図-1 スクリーントーンが欠落した例

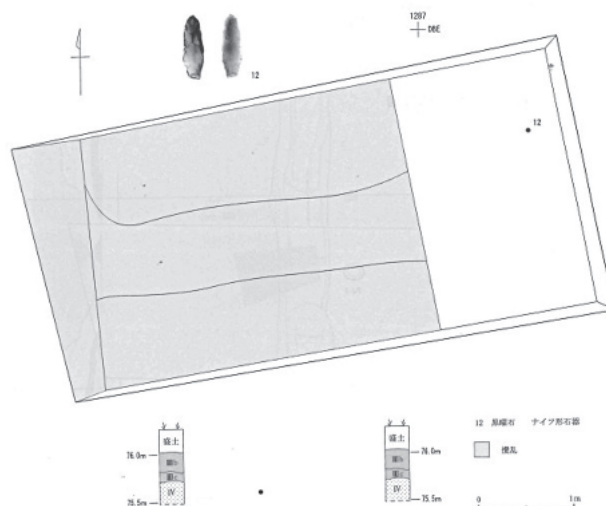


図-2 スクリーントーンが読み込めた例

じている。このように読み込んだ図に不備が生じている可能性があるため、全データの見直しを行う必要が生じており、作業の遅滞の原因となっている。

PDF版報告書が完成したものについては、奥付下に作成日や原本の大きさ、裏面が白紙のため省略した頁情報などのデータを記入している。

### (3) 書誌・抄録データの収集・入力

これまで作成した報告書やその他刊行物の資料のデータが整理されていなかったことから、刊行済みにもかかわらず、報告書として把握されていないものが存在するように感じていた。

実際PDF化作業を進めている過程で、臨時職員が作業中に報告書を「発掘する」という事態が起きて

いる。2018年9月頃までに把握した大きな課題は下記の通りである。

- ① 過去に刊行した報告書が未把握である。
- ② 抄録が無い（文化庁通知以前作成のため）刊行物がある。
- ③ 抄録データベースに入っているはずのデータが入っていない。

まず③については、2019年3月に当該年分の報告とともに報告した。当時、遺跡報告総覧と抄録データベースが別のデータベースとして機能していたが、抜けている情報があることは、報告総覧への掲載作業にかなり悪影響を及ぼすものであり、先行して報告と掲載依頼を行った。2019年6月に抄録データベースの全国遺跡報告総覧への統合が行われているため、現在では書誌・抄録データは自治体がおのおの入力することとなっているので、このようなことはしなくて良い状態になっている。

②のように抄録がないもの、あったとしても表記方法が報告総覧への入力には向いていないものなどが存在した。

報告総覧での掲載に向いていなかった例としては、同一遺跡で複数次数の調査を行っている場合に、例えば「武蔵国分寺跡第716次調査他5件」<sup>6)</sup>といった表記をしているものである。この表記方法では、他5件の調査地点や出土遺構・遺物の情報が、個別の調査情報として検索ができない。特に文化財総覧WebGISの公開により、このような表記は致命的な欠点となっている。そのため、調査次数ごとに分解して掲載するべきと判断した。

当初は抄録データについてはそれなりに前提となる知識が無ければ作成作業をすることが難しいと考えていた。一方でかなりの事務量が想定されたため、埋蔵文化財関係の事務を担当している臨時職員にお願いすることとした。

そして図-3～5のような用紙を作成し、報告書の書誌・抄録データ入力のための基礎情報を準備した。

報告書書誌メモ（図-3）では、市内の遺跡が偏っていることを考え、よく出てくる組織・住所には丸

書名			
書名かな			
副書名	空欄になることもあり		
巻次	空欄になることもあり		
シリーズ名	空欄になることもあり		
シリーズ番号	空欄になることもあり		
編著者名			
編集機関	国分寺市教育委員会	国分寺市遺跡調査会	武蔵国分寺遺跡調査会
発行機関	国分寺市教育委員会	国分寺市遺跡調査会	武蔵国分寺遺跡調査会
発行年月日	8桁数字		
作成機関ID	13214		
郵便番号	1850023	1850003	
電話番号	0423000073		
住所	東京都国分寺市	西元町1-13-10	戸倉1-6-1
報告書種別			

図-3 報告書書誌メモ

を付けるだけで記入ができるようにした。書誌情報については、奥付などからそこまで複雑な作業にはならなかったと考えている。

抄録メモ（図-4・5：現物では両面印刷とした）については、報告書内で報告している調査次数ごとの情報を書き込むものである。前述の通り、抄録でまとめて記載されていても、次数ごとにメモを作ることとした。抄録があるものはそれを確認しながら書き写し、無いものについては、報告書を見て図面や本文の内容からその調査によって何が検出したかを再確認して、遺構・遺物の情報を整理した。表記が、「SI」であろうと、「竪穴建物」であろうと、同じ遺構としてすぐに判断ができるようにした。この方法は報告総覧に入力する際に、順番の揺れも生じないというメリットもある。遺物も同様に、「中期の縄文土器」であろうと「勝坂式縄文土器」と書いてであろうと、それが縄文土器（中期）と分かるようにした。

省略表記や専門用語に対応する説明用紙を準備しておくという方法もあったとは思いますが、報告書・メモ用紙・説明用紙の3点を見ながら作業するのは効率が悪いと考えたためこのような形式とした。

事務職といっても、日ごろ届出対応などで考古学の用語に触れていたことや、そもそも優秀な方々であったため、この作業は筆者の想像以上に短期間で



図-4 抄録メモ (表)

図-5 抄録メモ(裏)

最初の段階では、のべ62名・社の外部執筆者・組織が存在することが分かり、権利者の探し方の問題

などから許諾作業については一時保留状態としている。2018年度以降、原因者負担の調査や民間調査会社に関わる発掘調査において結ぶ協定では、当初からデジタル公開についても承諾していただく形としている。

### 3. 公開と今後の課題

#### (1) 公開の状況

当初は全てのPDFデータの準備が出来てから、公開をするという計画であったが、準備が出来たものから公開していく方が良いのではという意見が作業を担当した臨時職員からあり、権利関係に問題の無いものから順次公開していくことにした。

2020年東京都・奈文研主宰の意見交換会の中で、報告書の個人情報についての話題が出たことから<sup>8)</sup>、特に古い報告書から個人情報についてマスキング処理を行っている。

	書誌登録数	PDF公開済
埋蔵文化財発掘報告書	119	82 ( 69 % )
史跡整備関係計画など	14	8 ( 57 % )
建造物報告書	1	1 ( 100 % )
現場説明会資料	3	3 ( 100 % )
公開予定件数	137	94 ( 69 % )
公開予定なし	5	

現時点（2022年12月1日現在）では上記で示したように、PDFデータまで公開が進んでいるものは65%である。

「史跡整備関係計画など」については、整備の計画、整備報告書などを指している。2020年10月の奈文研による関連発掘調査報告書の書誌情報の際に書誌情報が登録されるまで、公開対象として認識していなかった。史跡の整備などに関する資料として公開しておくべきものであり、優先的に公開を進めていく必要があると考えている。なお整備関係の報告書は残部も少なくなっているが、他自治体からの問い合わせなどもあるため、公開がより多く活用につながるのではないかと考えている。

「建造物報告書」は、市の所有する指定文化財建造

物の修理報告書である<sup>9)</sup>。市内の建造物についての調査に協力していただいている文化財調査専門員との話の中で、「建造物の報告書は、発掘調査報告書よりも見付けにくい」と伺ったことから、PDF公開を決めた。埋蔵文化財報告書は、その印刷部数の少ななどから図書館では「灰色文献」と称されることが多いが、建造物の報告書のほうがより「濃い灰色文献」と言えるのかもしれない。確かに掲載してみると一定のダウンロード数がある。

「現場説明会資料」については、内部でも保存・管理がうまくいっていない資料であり、これを機に整理と公開を進めたいと考えている。

「公開予定なし」としているものは、主に過去の遺跡地図（埋蔵文化財包蔵地地図）などである。これらはどれだけ注意喚起をしても、最新の遺跡地図と勘違いされる恐れがあるため、公開対象としない方針である。ただし、包蔵地の変遷などに関する情報については、研究上の意義もあることから、報告書などの中で整理した上で公開する予定である。

#### (2) 現状の課題

本来であれば2年前に公開作業が終わっている計画であったが、現時点でも完了していない。先述したとおり、PDFデータ作成時に発生しているトラブルの確認作業が全体の作業に大きな悪影響を及ぼしている。この理由は当初の計画がひっくり返ってしまったため、全体像を把握しないまま作業を始めたことから、人手が無くなってからのPDF作成作業などが発生しており、この点も遅滞の原因となっている。

公開用PDFの作成時に気がついた問題として、正誤表の問題がある。正誤表については、当初は報告書に貼り付けられている状態のままPDFデータ化するつもりであった。しかし正誤表については、今後ミスが見つかった際に該当ページ以外もデータの差しかえが必要になるという事に気づいたため、正誤表については別データとすることとしている<sup>10)</sup>。

また正誤表の形式が統一されておらず（正←誤、誤→正）、報告書名が書かれていない、いつ作成された正誤表であるのか分からないといった不備があるた

め、正誤表については作り直しを行うこととした。正誤表での訂正は、刊行された報告書との関係を考えるならば正しい訂正方法ではある。一方で、このままでは本文のOCR処理などが進んだ際に、現在の訂正は検索がうまくいかなるという次の問題を生じるのではないだろうかという懸念がある。

報告書の書誌データおよび抄録データの登録が終わったところで、文化財総覧WebGISでの位置情報の公開などが行われた結果、抄録データの誤記による位置の不備が発生している。これには武蔵国分寺跡調査で使われていた局地座標（武蔵国分寺跡金堂・講堂の中間点を基準とする）、日本測地系、世界測地系と様々な座標情報が混在していること、および調査時の不正確な測量データの利用にあると考えられる。位置情報についてはPDFデータの公開が完了してから修正を行う予定である。

### (3) まとめにかえて

これらの様々な問題を乗り越えて現在に至っているのだが、1年足らずのうちに印刷部数以上のダウンロードをされている報告書があることや、残部の無い報告書がダウンロードされ活用されている。そのため、作業量以上の効果があったと考えている。そしてこの作業については、考古学の知識が無い職員を中心として行えるものであったということが本論の要旨である。

計画通り作業が進まなかった理由は、やはり当初想定した手順通りに出来なかったことから発生した問題、つまり人手がなくなってからスキニング作業をする必要が発生したことと、スキニングする機材の問題、そして作業を分解して合間仕事として行ってきたことも理由として行ってきたこともあげられる。最後の項目は言い換えるならば、無理の無い範囲の仕事で進めてきた結果とも言える。

コロナ禍において、図書館が使えないというこれ

まで考えられない状況が発生した際に、学生や発掘調査会社の方々が報告書を見られなくなって大変困ったという話を聞いた。そのような話を聞くともっと全力で進めておけば良かったと反省もしている。拙文を眼にされた方が、報告書の公開に着手するきっかけにいただければ、望外の喜びである。

最後にこの作業に協力してくださった職員の方々にこの場を借りて、篤くお礼申し上げたい。

### 【補註および参考文献】

- 1) 国分寺市教育委員会 2016『国指定史跡武蔵国分僧寺跡発掘調査報告書1（遺構編）』国分寺市教育委員会 ほか
- 2) 恋ヶ窪遺跡調査会 1979『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅰ』国分寺市教育委員会 ほか
- 3) 国分寺市教育委員会他 2021『国分寺市埋蔵文化財調査概報令和元年度』国分寺市教育委員会
- 4) 国分寺市遺跡調査団 2004『熊ノ郷遺跡発掘調査概報Ⅰ』国分寺市遺跡調査会
- 5) 国分寺市遺跡調査団 2008『東山道武蔵路発掘調査概報Ⅰ』国分寺市遺跡調査会
- 6) 国分寺市教育委員会他 2018『国分寺市埋蔵文化財調査概報平成28年度』国分寺市教育委員会 ほか
- 7) 共和開発株式会社 2017『恋ヶ窪東遺跡発掘調査報告書』共和開発株式会社 ほか
- 8) 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所企画調整部文化財情報研究室 2022『文化財と著作権』奈良文化財研究所研究報告34
- 9) 国分寺市教育委員会ふるさと文化財課 2018『旧本多家住宅長屋門・倉保存修理工事報告書』国分寺市教育委員会ふるさと文化財課
- 10) 国分寺市教育委員会他 2021『国分寺市埋蔵文化財調査概報令和元年度』国分寺市教育委員会 ほか